

Keyword: 「発達障害」「重複」「強弱」「理解」

### 1. 研究の背景

はじめに、私がなぜ発達障害について研究しようとしたかという、近頃”発達障害”という言葉がテレビやSNSなどのメディアで見かけることが多くなったが、詳しいことがよく分からないままなので、もっと理解を深めたいと思ったからだ。

私はこの発達障害の研究を通して、テレビやSNSなどのメディアで見かけることが多くなり、表面上だけの自分の発達障害の知識を文献などを通して正しく深め、さらにさまざまな人にも正しい知識を知ってもらいたいと考える。

### 2. 先行研究の検討

本田秀夫は著書「発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち」で、発達障害には「重複」や「強弱」があると主張している。確かに複雑な人間の内面が、分類の少ない障害の枠組みに全ての人間がピッタリ当てはまる、という方がおかしい話であると感じた。

### 3. 独自研究

一般社団法人チャレンジドLIFEの「社会における発達障がいへの認知や理解に関する全国調査」から、発達障害という言葉自体は広く認知されているものの当事者やその家族は日常生活でしっかり理解されていると感じていないということが分かった。

### 4. 結論と今後の課題

発達障害は「有りか無しか」で考えられるものではなく、「重複」や「強弱」があるということを理解するのが重要である。すべての特性に強さ、あるいは濃さのようなものだということを知り、発達障害という言葉自体は広く認知されているものの当事者やその家族は日常生活でしっかり理解されていると感じていないという、自分自身の発達障害の詳しい知識はついた。しかし、まだまだ発達障害を詳しく正確に理解できている人が少なく、また今回の研究ではその問題を少しでも良くするための具体的な活動が行えなかった。この反省を次回の研究に活かしたい。

### 主な参考文献

米澤慶一「発達障害について考える：共に生きる社会の構築」ニッセイ基礎研究所2012

[https://www.nli-research.co.jp/files/topics/39609\\_ext\\_18\\_0.pdf?site=nli](https://www.nli-research.co.jp/files/topics/39609_ext_18_0.pdf?site=nli) (参照日:2022/11/12)

本田秀夫「発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち」SD新書

チャレンジドLIFE「社会における発達障がいへの認知や理解に関する全国調査」

<https://www.challenged-life.com/research/> (参照日:2023/9/21)